

創造する校長会をめざして～平成から令和へ～

久留米市小学校長会 会長

5月1日、新元号、「令和」の幕が開きました。

この元号は、日本最古の歌集『万葉集』に収められている「梅花の歌三十二首 序文」にある「初春の令月にして 気淑く風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫ず」の文言を引用したもので、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められています。

この内容は、まさに、教育の不易と流行を見極めながら、新たな教育を創造していく校長会をはじめ、教育に携わる者の姿として映ります。

さて、本会は、着実な成果を目標に掲げ、全連小の研究主題「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、県小学校長会の研究主題「豊かな未来を創り出す子どもを育てる小学校教育を推進する学校経営」を受けて、本市小学校長会の研究主題「笑顔で学ぶくるめっ子を育て、信頼に応える学校をつくる校長の理念と指導性」を掲げて実践研究を進めてまいりました。また、久留米市第3期教育改革プランの実施3年目の具体的な実施・評価・改善を課題として位置づけて取り組んできました。その結果、笑顔で学ぶくるめっ子の姿が具現化されつつあると実感しています。

本年度は、第3期教育改革プランの最終年度として、成果を出すとともに次年度への課題を明らかにし、橋渡しをする重要な年です。ぜひ、一人ひとりの子どもたちが輝くよう日々の学習指導、生徒指導を充実させていきたいものです。

さらに、保護者・市民の皆様の教育に対する信頼と教職員に対する信用を高める指導の徹底に努めなければなりません。家庭と地域の教育力を学校に取り入れ、連携・協働して子どもの教育にあたっていく「チーム学校」としてのシステムの充実が求められます。

加えて、次世代の人材育成をいかに図っていくかが大きな課題です。そのためには、校長自らの資質能力を磨いていくとともに、副校長・教頭、主幹教諭等のミドルリーダー等の育成を計画的に進めていくことが必要不可欠です。

そのために、本年度、新しい組織のもと4部会の活動の方向・内容を焦点化して実をとる創造する校長会をめざします。一人ひとりの校長先生方の力量の発揮とともに、チーム校長会として未来を託す子どもたちのために汗を流しましょう。

課題は、山積みですが、小学校校長会として、久留米市教育委員会、中学校校長会、小・中学校PTA連合会協議会等との連携の中で本質に根ざした着実な教育活動を図っていく覚悟です。

平成から令和へと時を刻む本年度、どうぞよろしくお願いいたします。